

令和4年度県北地区読書支援者育成事業研修会



令和4年7月2日（土）福島県自治会館において、子どもの読書活動推進に向けて活動する方々の専門的な知識や技能の向上を目的として、標記研修会を開催しました。

1 事例発表 「子どもたちに大きなゆめを～おはなしボランティアゆめこじの挑戦～」

おはなしボランティアゆめこじ 代表 田辺 将裕

(1) おはなしボランティアゆめこじの活動紹介

- 毎月第2土曜日「あだたらふるさとホール」にておはなし会を開催している。絵本の読み聞かせ、紙芝居、エプロンシアター、工作、手遊び、季節の歌、年中行事の再現を組み合わせ実施している。

(2) 大玉村の子ども読書活動の現状についての説明

- 子どもの読書離れが進む反面、保護者の読書に対する期待度は高まっている。読書へのきっかけづくりや関心をもたせることが大切であると考え、おはなし会を運営している。

(3) 昔なつかしい、自転車紙芝居の実践

- 声色を変え、拍子木を効果的に使用し、臨場感あふれる実演を披露。以前は村内の小学校を訪問して紙芝居を披露していたが、コロナ禍の現在、活躍する場が少ない状況である。

田辺将裕氏は、大玉村教育委員会生涯学習課に入庁された際、子どもの読書活動の担当になり、おはなしボランティア組織を立ち上げ、代表として大玉村の読書活動の推進に取り組んでおられます。



<自転車紙芝居>

2 震災語り部による読み聞かせ「紙芝居とアニメーションによる読み聞かせ」

浪江まち物語つたえ隊 岡 洋子 氏

(1) 浪江町の現状についての説明

- 浪江町の方たちは、2011年の震災によって全町避難を余儀なくされた。震災後5年たってから徐々に町に戻れるようになり、現在は、浪江町全体で復興に向けて頑張っているところである。

(2) アニメーションDVD「わたしは帰らない」視聴

- 震災の際に起きた実話から作成されたアニメーションは、家族の絆や当たり前の暮らしを当たり前に行うことができずについて改めて考えさせられる内容であった。

岡洋子氏は、震災当時の状況を語り継ぐための語り部として、震災の記憶の風化防止につながる活動を行っています。



<「わたしは帰らない」の視聴>

読み聞かせ等をおして、震災の記憶を語り継ぐことの大切さを再認識することができました。



3 講義・演習「子どもと本を結ぶアイデア～絵本でカルタ作成のヒント～」

岩手県立図書館 指定管理者 サービス1課 児童サービス担当 司書 沼宮内 望 氏

(1) 「絵本でカルタ」の説明と読み札作成についての説明

- 子どもたちに本に興味をもってもらえるように様々な取組を行っている。その中から「絵本でカルタ」を紹介いただいた。読み札を作成する際には、絵本を探す人の気持ちになって文面を考え、あらすじや特徴的な人物の紹介等を5・7・5などのリズムを考えて作成するのがコツである。

(2) 「絵本でカルタ」の実践

- 参加者全員で持参した絵本の読み札を作成し、実際に「絵本でカルタ」を行った。絵本をとってすぐに次の読み札にうつるのではなく、絵本を取った後にその本の紹介をするなど、一工夫すると絵本に愛着が湧いて良い。

(3) コロナ禍における岩手県立図書館の取組についての説明

- 滞在時間を短縮するための工夫や屋外での家族ごとのおはなし会の実施。来館しなくてもおはなし会に参加できるようにYouTubeによる動画配信など密にならない工夫を行っている。
- スタッフ同士で話し合いを行うことで、よいアイデアが浮かんでくる。子どもたちが楽しく本に出合えるように努力している。

沼宮内望氏は、岩手県立図書館の児童サービス担当司書職として勤務しながら、全国公共図書館研究集会（児童・青少年部門）において事例報告を行うなど児童の読書活動の推進に取り組んでおられます。



<絵本でカルタの実践>

4 情報交換



公民館や学習センターの図書コーナーには学校には置いていない本もあるので、学校との連携が図れるといいですね。



おはなし会では、以前行っていた歌をやめて、手遊びのみにしたり、ビッグブックを活用したりとコロナ禍においても子どもたちの興味や関心を引く工夫を心がけています。



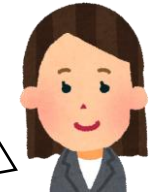
コロナ禍のおはなし会では、ふれあい遊びなどを実施することが難しいです。活動内容に制限がかかってしまうことが残念です。

読書ボランティア・学校司書・教員など異なる立場の方々と読書活動に関する情報交換を行いました。

毎月1回はグループで集まって読み聞かせに使用する絵本やおはなし会の運営の仕方について勉強会を開いています。



中学生ぐらいの頃から絵本の読み聞かせの読み手として、人に伝える機会をもたせることが大切なのではないでしょうか。中学生が母校の小学校を訪ねて読み聞かせを行ってみてはどうでしょうか。



コロナ禍の際、対面で読み聞かせができないときには、学校の放送設備を利用して実施しました。



参加者の声

- ゆめこじさんは、様々な活動に取り組んでおられ、子どもたちに大きな感動を与えていることに感銘を受けました。自転車紙芝居の迫力に心を奪われました。
- 震災当時の浪江町の子どもから大人までの行動について、アニメをとおして知らせていただき感動しました。全国、全世界に福島震災を伝え、災害に注意していくことの大切さが胸にしみました。
- 岩手県立図書館の取組は、学校の図書委員会の活動でも行えそうなものがあり、勉強になりました。小学生の読書離れが進んでいるので本日学んだ楽しいイベントや仕掛けを行って、本に興味関心のある子どもたちを増やしていきたいです。
- 子どもの読書環境を支えるために、多くの方が活動されていることが分かりました。読書離れが進む中、今回の研修を生かして読書活動の充実を図っていきたいです。



コロナに負けずに読書活動の推進を！

- 新型コロナウイルスのため、おはなし会などの運営に制限がかかり、思うように活動ができないという声を多く聞きます。支援者同士が情報交換を行い、今できることを継続していくことが大切です。また、インターネット等を活用して情報収集をするのもよい方法です。今回の講師、沼宮内様が所属する岩手県立図書館のホームページには、活動のヒントがたくさんあります。ぜひ、一度閲覧してみてくださいはいかがでしょうか。
- 子どもの自主的な読書活動を促進するためには、大人自身が読書に親しみ、子どもの読書活動の意義や重要性を理解していくことが大切です。県北教育事務所としましては、子どもの読書活動に対する県民の関心と理解を深め、子どもの自主的な読書活動を推進する社会的気運を醸成するために、研修会の実施等による支援を行ってまいります。